看護部だより
ひまわり
2025年7月
発行責任者　久留須 加寿美
VoL.96

新人職員一泊宿泊研修について

日時：５月30日(金)～31日（土）

場所：川内原子力発電所展示館
薩摩川内市消防局　他

３階病棟　古薗

一泊研修を通して看護部だけでなく様々な職種の新人職員と関わることが出来ました。マンダラート作成を通して、１年後の自分たちが専門職としてあるべき姿を目指し、これからの業務で、日々の振り返りや技術練習を行い、３月の評価時には信頼される医療従事者になれるように努力していきたいと思います。職種が違う同期との交流が初めてで緊張しましたが、他己紹介やＮＡＳＡゲームを通してお互いを知り、コミュニケーションが図れました。同じ新人職員として気軽に話すことができる仲間が出来たと強く感じました。

ＨＣＵ副師長　教育委員長　松下

今年は、看護師4名、リハビリテーション部6名、薬剤師2名の新人職員12名と引率4名で新人職員一泊研修へ参加しました。

1日目は、ＳＳプラザにて他己紹介、マンダラチャートを作成し発表しました。原子力発電所の見学後、ちどり荘へ移動し、NASAゲームを実施しました。2日目は、薩摩川内市消防局防災センターにて防災対策などを学びました。

2日間を通して、他部署、他職種職員との交流を図り、チーム医療、自己の役割・行動について考えることができたと思います。仲間の大切さを感じて、共に頑張っていきましょう

４階東病棟　栗原

新人職員一泊研修に１日間だけ参加しました。他職種とグループになり、ひとつのマンダラートを作成したことが特に印象的でした。同じ目標に向けて、どのようなコミュニケーションをとっていく事が必要か、自分が今後どう取り組んでいくかを改めて考えるいい機会となりました。今回の研修で他職種のことや、他の新人看護師のことを前よりもさらに深く知ることができ、これから業務の中で多職種連携が必要になったときに活かしていきたいと思います。

４階西病棟　谷下

マンダラチャートを作成し、「一年後の目標」について、自身の考えを深めると同時に、同期の様々な視点や価値観を知ることができ、大変刺激を受けました。また、この活動を通じて他部署の同期と交流を深めることができ、今後の職場での連携や協力にも繋がると感じました。多職種との繋がりを意識していくことは、より良いチーム医療を実現する上で非常に重要だと実感しました。今回の研修は、学びだけでなく人との繋がりを深めることができ、自分自身の成長に繋がる有意義な時間となりました。この経験を活かし、学びを実践につなげていきたいです。

ＳＳプラザにて
マンダラート作成

川内原子力発電所
資料館　見学

薩摩川内市消防局にて
防風体験

薩摩川内市消防局にて
救急車内見学

新人看護師基礎研修　一泊入院患者体験

3階病棟　山上

利き手の麻痺があり三角巾着用をした患者を体験しました。ナースコールを押すことに躊躇し、また利き手が使えない事で食事摂取の難しさを感じました。体験・気づきを通して私達が日頃何気なく行っていることが患者さんの立場になると些細な言動でも気になり、看護師に声を掛けることが難しいと感じました。これからは私から患者さんにトイレ等の声掛けを行い、自分で動作が難しい方には患者さんが過ごしやすい環境作りを行うように心がけようと思いました。また、看護師が優しい口調や共通のある趣味があると、とてもコミュニケーションが図りやすかった為、患者さんが想いを伝えやすい雰囲気つくりをしていきたいです。今回の学びをこれからの看護に活かしていこうと思います。

手術室　古川

一泊患者体験で、ニーブレースを装着し松葉杖を使っての移動を体験しました。実際に歩いてみると、想像以上にバランスをとるのが難しく、移動そのものが精神的ストレスを感じました。また、距離の短いトイレへの移動でも疲労感があり、日常生活動作がどれほど制限されるかを実感することができました。今回の体験を通じて、入院生活が患者にとってどれほど精神的・身体的に不安となるかを深く理解しました。今後、「自分が患者の立場だったら」を想像しながら行動し、患者一人ひとりに寄り添う姿勢を持った看護を実践していきたいと思います。

＜三角巾装着＞

＜ニーブレース装着＞

S-QUE＋　～研修アンケート抜粋～

ラダーⅢ研修：多職種チームカンファレンスの企画とファシリテーション

4階西病棟　中野

今回の研修で多職種カンファレンスの意味や企画、進め方など再度勉強をするいい機会になりました。以前は退院１週間前に退院前カンファレンスを企画して、ＭＳＷと参加者の検討を行い医師、看護師、家族ＭＳＷ、訪問看護やケアマネージャーと退院前カンファレンスを行い、患者・家族が不安なく退院できるようにしていました。だんだんカンファレンス開催の機会も減っており、今後も患者・家族により良い看護を提供できるように多職種カンファレンスを企画し看護できるようにしていきたいと思いました。

ラダーⅣ研修：複雑な状況にある尊厳死・DNAR・リビングウィル

4階西病棟　福永

今回の事例のように、本人が意思表示できない状況で、本人の事前の意向と家族の希望が対立する場面はあり、ジレンマを感じることがあります。急病や外傷など、予測していない事態が起こることもあり、急な出来事でとにかく生きていてほしいと願う家族の気持ちは十分に理解できます。意思決定を急ぎすぎずに、家族が少しでも心理的に落ち着けるように関わることも大切にしていきたいと感じました。また、アドバンス・ディレクティブが有効かどうかはっきりしない場合であっても、患者の大事な意向として尊重することが尊厳を守ることであり、そのためには意思表示できるときにACPを行っておくことが重要だと学びました。その中で、「結論」であるリビングウィルだけに目を向けるのではなく、治療のゴールや、患者の予後や病状に対する理解など、話し合いのプロセスを知ることで、患者の意思を家族らと共に推定し、最善のゴールを決めることにつながるのだと学ぶことが出来ました。

＜2025年度 看護研究＞：各部署のテーマ

【外　　来】「外来の待ち時間に対する不安・不満軽減への取り組み」～診察時間帯の案内提示を通じて～」

電光掲示板での診察待ち時間表示、外来時の流れを示すなどのアプローチを行うことで患者さんが診察状況を把握しやすくなり、不安や不満の軽減に繋がるのではないかと考えました。そのうえ看護師も診察状況を把握しやすくなり、患者さんへの声掛けや対応がより円滑になり、患者さんが安心して診察を受けられる外来づくりを目指し、研究に取り組んでいきたいと思います。

【手 術 室】 安全なチェックリスト活用のための取り組みと課題

当院では2016年からチェックリストを用いたタイムアウトを導入しています。タイムアウトとは「スタッフ全員が手を止めて一斉に確認作業をすること」ですが、タイムアウト中に使用機材のセットをしたり、ガーゼカウントのタイミングが遅れたりと、手術安全チェックリストが正しく活用されていない現状があります。スタッフへのアンケート実施や実態調査を行いながら、どのような課題があるかを明らかにし、安全で確実なタイムアウトが実施でき看護師の心理的ストレス軽減に繋がればと思い取り組むことにしました。

【Ｈ Ｃ Ｕ】 早期せん妄予防介入を目指して～ICDSCの活用～

昨年度、せん妄予防について看護研究で取り組み課題が見つかりました。今年度もせん妄予防に関しての看護研究を取り組むことにしました。今年度は、せん妄をICDSCで評価、HCUのせん妄発生率とせん妄症状を分析、早期の予防的看護介入を行い、せん妄発生率とせん妄症状を把握して予防的看護介入の有効性について取り組みます。

【3 階 病 棟】 腓骨神経麻痺ゼロ作戦！

当病棟では、毎年腓骨神経麻痺が発生しています。発生要因を振り返ると、自ら危険回避が困難な患者が多い、また認知機能低下により背屈運動の指示も入りづらい事で変化に気づくのが遅かったなどが挙がっています。高齢の患者が増加している現状をふまえ、腓骨神経麻痺を絶対起こさないような対策が必要であると感じ研究テーマとして取り組みます。

【４階東病棟】 セル看護を導入し、「ムダ」を省き実際患者ケアとスタッフのモチベーションアップに繋げることができるか

セル看護導入して5年程が経過しました。マニュアルを遵守した上で効率的に業務を行っていますが、実際には患者に対して十分なケアを提供する事が出来ていない状況です。利益にならない「ムダ」があるため、その「ムダ」を整理して省き、ケアの受け手（患者）の価値を最大に活かしていきたい。結果、看護師として思ったケアができる事は、やりがいとなりモチベーションアップにつなげることができるのではないかと考え今回の研究テーマにしました。

【４階西病棟】 せん妄対策予防対策

高齢化が進み、高齢者の入院患者が増加しています。入院生活の中で回復を妨げるものとしてせん妄があります。せん妄は意識障害の一種であり、軽度の意識混濁と著しい認知機能障害を呈します。せん妄は治療を妨げ、入院期間の延長、更に身体拘束の増加につながるため、せん妄の予防と早期対応が重要となってきます。そのためにせん妄対策を充実させ、効果的な患者対応に繋げたいと考え研究テーマにしました。

【回復期リハビリテーション病棟】 消灯時間延長に伴う睡眠状況の変化について

昨年度、消灯時間延長に伴う睡眠状況の変化について研究を行いました。ナースコール件数は減少しましたが、必ずしも入眠していたとはいえない結果となりました。今回、同研究を行うにあたり対象患者を増やし患者へのアンケートを行うことで、より正確な睡眠状況の変化がみられるのではないかと考えました。消灯時間を延長することは、看護師の業務が改善されゆとりをもち患者に接することができ、患者は精神的に安定した状態で入眠をむかえられ、スリープゲートが開き入眠しやすい状況になると思い取り組むことにしました。

ラダーⅠ「在宅訪問」を終えて

3階病棟　緒方

5月に在宅訪問研修を実施させていただきました。退院後、自宅での生活を見学し、介護を行う家族の話を聞きました。また退院後も多職種の介入があり多職種連携についても学べた在宅研修となりました。患者本人、介護を行うご家族それぞれに違った思いや不安があり、入院時から退院後の生活を見据えて、患者家族への介入を行う事ができるよう関わり、退院後在宅に戻った際の不安などを少しでも軽減し退院できるよう支援していきたいと思いました。

看護協会主催：看護師の倫理観をはぐくむ倫理研修に参加して

ＨＣＵ主任

当院ではこれまで、院内研修や看護ラダーレベルに合わせて、様々な倫理研修が実施されています。倫理とは、難しい、答えや正解がないなど、イメージ的に難しく考えがちです。私達が普段から馴染みある「りんりかん」は「倫理感」であり、倫理的な感情で、倫理に積極的に従おうとする気持ちのことを意味します。そして「倫理観」とは、倫理をどのように捉えるか、倫理に対する見方・構えのことを指しています。倫理は人間社会の根幹です。倫理とは何かを問い、個々の決まりやルールが本当に必要なのか、なぜ守らなければいけないのかを考えることが大切です。時には、自分と倫理観を異とする人達とじっくり話し合ってみる必要もあります。そういった作業の繰り返しを実施しながら、各自の倫理に対する理解と納得を深め、自分なりの倫理観を築き上げていくべきと学びました。

第26回日本医療情報学会 看護学術大会に参加して（6/27・28）

3階病棟　和田

今回初めて「量る看護」をテーマに医療情報管理学会に参加させて頂きました。少子高齢化はこれから続き、今後増々看護師の負担は大きくなっていきます。その中でも、看護の質や患者満足度を保つために期待されているのが医療DXです。全国でも医療DXを推進している病院が多くあり、入院説明や転記作業のデジタル化、生成AIを使用しての記録の記載など、感銘を受けました。また、様々な看護業務を実際に量ることで可視化出来るようになり、それから医療DXの導入部分や改善点が出てくるのだと思いました。日々の仕事でも、何が量れて可視化でき、進化できる部分がないか考え、そして、その先にある看護の質の向上、患者満足度向上を目指していきたいと思います。

マイブーム

手術室　下馬場

最近のマイブームは、YouTubeで見た動画をきっかけに始めた「パン作り」です。料理動画から関連で流れてきて、材料や道具も家であるもので始められると分かり、気軽に始めたのがきっかけです。最初に作り始めたのは総菜パンです。特にウインナーパンやハムパンは子供たちに人気で、喜んで食べてくれるのがとても嬉しいです。朝ドラでおいしそうなあんぱんのシーンを見て以来、無性にあんぱんが食べたくなり何度も作っています。最近は、食パン型を買い、食パンに挑戦中です。ふわふわに焼き上げるのはなかなか難しいですが、思い通りに出来た時の喜びは別格です。これからもいろいろな種類のパンが作れるようレパートリーを増やしていきたいと思います。

＜編集後記＞

いよいよ暑い夏に突入し、日本各地で熱中症患者も増えてきています。体調管理には十分気をつけ、夏を満喫したいですね。　轟原